

岩永マキ

浦上十字会の設立者

岩永マキ(長崎純心大学博物館蔵)

岩永は 1869 年に浦上から追放された 3394 名の一人でしたが、1873 年、日本でのキリスト教の禁教が終わった後、当時 25 歳であった岩永マキ(1848-1920)は、追放、流刑されていた岡山から浦上に戻りました。

1874 年に浦上で赤痢が流行した際、岩永は、ド・ロ神父が行った救護活動に参加しました。その後もド・ロ神父の精神的経済的支援を受けながら仲間の女性たちとともに、相次ぐ台風による被害や、天然痘の流行の後に、彼女は孤児となった子供達の世話を始めました。この時に形成された女子の共同体は浦上十字会となりました。

ド・ロ神父の指導と援助を受けて、浦上十字会を設立し、294 人の孤児を養子として育てました。岩永によって創始された活動は、今でもお告げのマリア修道会に継承されています。